

STSフォーラム (Science and Technology in Society forum)

実施予定期間：平成 24 年度

総括責任者：尾身 幸次（特定非営利活動法人 STS フォーラム 理事長）

実施責任者：山元 孝二（特定非営利活動法人 STS フォーラム 事務総長）

I. 概要

科学技術の発達が人類により大きな便益と福音をもたらすことが期待される一方で、人類と地球環境を脅かす存在にもなりうるとの認識のもと、世界各国の科学者、政治家、政策担当者、経済人、ジャーナリストが一堂に会して科学技術の“光と影”、科学技術と人類の未来に関して議論し、人類の発展と調和した科学技術の適切な発達に寄与することを目的として、NPO 法人 STS フォーラムは 9 年前に設立され、事務局を日本に置き、毎年年次総会を京都で開催している。科学技術と人類の未来に関する国内最大の国際会議であり、世界の認知度も高まってきている。今年の会議では、エネルギーと環境、原子力の安全と将来、世界の保健、イノベーションの向上、人口と資源、研究機関の刷新、情報通信技術と安全性等の議論を予定している。

これらを通じて得られる成果が、各国内での議論、さらには国際社会において行われる分野別あるいは二国間・多国間の議論にまで影響を及ぼし、波及していくことをねらいとしている。このような会議を継続して開催し、世界のリーダーのための運動に成長することにより、人類のよりよい未来の建設に貢献していくことを目指している。

1. 目的

近年、科学技術は急速に発展し、人類の生活の向上・経済の発展に大きく貢献してきた。その反面、環境問題（地球温暖化等）、クローン人間の問題、IT(情報技術)とプライバシー侵害、原子力の問題などの、科学技術の発展に伴うマイナス面も生じてきている。すなわち、科学技術の発展には“光”と“影”の両側面がある。

今後の人類の将来を考えると、こうした科学技術が人類の生活の向上や経済の発展に寄与するいわゆる“光”の部分の伸ばし、“影”の部分のコントロールしていく必要がある。このためには、科学技術の専門家のみならず、政治家、政策担当者、経営者といった幅広い分野の人々が、しかも、世界中から集まり一堂に会して、科学技術をどのように扱っていくかを議論する必要がある。

このために開催されているのが STS フォーラムであり、科学技術分野における共通の価値観の確立に向けて、世界中の幅広い分野の人々が議論し、世界

規模の行動につなげていくことを目的としている。

2. 必要性

科学技術は、21 世紀にその歩みを加速し、持続的な人類の発展をもたらす鍵として期待されているところであり、我々は、その叡智を結集して、こうした科学技術を活用するとともに、適切にコントロールしていく必要がある。

我々が直面している問題、科学技術の“光と影”の問題は、グローバル化と国際競争を背景にますます複雑化しているため、一国だけでは解決できるものではない。また、これらの問題は、その多くが社会システムの見直し、国際協力、世界規模のネットワーク及び共通のルール形成を通じて解決策が見出されるものであるため、科学技術の専門家のみによって構成される科学コミュニティだけで解決できるものではない。

従って、科学技術分野における共通の価値観の確立に向け、科学技術の専門家だけでなく、世界中の政治家、政策担当者、経済人、ジャーナリストなどのトップリーダーが、科学技術の“光と影”の問題を議論し、世界規模の行動につなげていくことが期待されている。

これまでにフォーラムの開催は 8 回を数え、昨年（2011 年）は世界中から約 800 名が集まり、上記について議論した。毎年京都で開催されている STS フォーラムは、科学技術と人類の未来について語る場として世界の認知度が高まってきている。

STS フォーラムは、事務局を日本に置き、毎年年次総会を京都で開いている。持ち回りでの開催、あるいはその年だけ日本で開催されるものではない。STS フォーラムは日本で実施されている、科学技術と人類の未来に関する最大の国際会議であり、国際的なコミュニケーションの場として定着しつつある。まさに国際政策対話の実現・科学技術外交の推進そのものである。

今年の具体的なテーマは、エネルギーと環境、原子力の安全と将来、世界の保健、人口と資源、イノベーションの向上や情報通信技術などが、議論の対象となる予定である。

科学技術と人類の発展についての議論は高まってきている一方で、その支援サポート体制は必ずしも確立しているとは言い難く、政府からの支援をお願いする次第である。

3. 具体的内容

- (1) 第 9 回 STS 年次総会及び特別会合の準備及

び開催

達により、全体会議と分科会を通じて議論する総会を開催する。テーマと議題は以下のとおり。

テーマ： 科学技術の光と影 Lights and Shadows of Science and Technology

全体会議

- ・ エネルギーと環境
- ・ 原子力の安全と将来
- ・ 世界の保健
- ・ イノベーションの向上
- ・ 人口と資源
- ・ 21世紀のための大学の役割、研究機関の

刷新

- ・ 情報通信技術とセキュリティ
- ・ 人類の持続可能性
- ・ 分科会
- ・ エネルギーと環境
- ・ ライフサイエンス
- ・ イノベーション
- ・ 教育と能力向上
- ・ 自然保護
- ・ 人間居住
- ・ 科学と社会

また、関係者との調整を実施後、特別会合として、科学技術大臣会議・科学アカデミー会長会議・大学学長会議・科学技術資金支援機構代表者会議・工学アカデミー会長会議及び新規に研究機関長会議を開催する。

(2) 理事会・評議員会の開催（平成24年10月及び平成25年1月）

- ・ 平成25年事業計画と予算
- ・ 第9回 STS 年次総会の声明の検討
- ・ 第9回 STS 年次総会の結果報告
- ・ STS フォーラムにおけるテーマ・内容についての議論、京都会議への招聘

(3) STS 年次総会準備のための各国個別会合（平成24年8月～平成25年3月）

第9回 STS 年次総会の結果報告、世界各国においてテーマ・内容についての議論、京都会議への招聘

4. 波及効果

世界中の政官産学界等のトップリーダーが集まり、科学技術の“光と影”の問題について議論することにより、STS フォーラムを通じて得られる成

平成24年10月7日～9日、国内外のリーダーが各国内での議論、さらには、国際社会において行われる分野別あるいは二国間・多国間の議論にまでも影響を及ぼし、波及していくことをねらいとしている。このような STS フォーラムを継続して開催し、世界のリーダーのための運動に成長することにより、人類のよりよい未来の建設に貢献していくことを目指している。これらの活動を通じて、日本のプレゼンスも高まり、我が国の科学技術外交の展開に寄与している。

5. 実施計画

1) 第9回 STS 年次総会の準備及び開催

- ・ 内外の参加者の招聘
- ・ 参加者受入対応
- ・ 国立京都国際会館（会場）
- ・ グランドプリンスホテル京都（ホテル）
- ・ 警察・警備会社（警備）
- ・ 京都実行委員会（レセプション関係）等との打合せ
- ・ 年次総会の開催

2) 特別会合（科学技術大臣会議・科学技術資金支援機構代表者会議・科学アカデミー会長会議・工学アカデミー会長会議・大学学長会議・研究機関長会議）開催に向けて関係者との調整

3) 理事会・評議員会の開催

- ・ 年次総会における声明の検討
- ・ STS フォーラムの事業計画・収支予算の検討
- ・ テーマの選定、スピーカーの選定等
- ・ 第9回 STS 年次総会の報告

4) STS 年次総会準備のための各国個別会合

- ・ 24年8月～25年3月
- ・ 世界各国において、テーマ・内容についての議論、京都会議への招聘

6. 参加者のターゲット

世界中の政官産学界等のトップリーダー

ノーベル賞受賞者・大学学長・科学/工学アカデミー会長・研究機関の長等
総理大臣・科学技術大臣等
経済団体会長・大企業グループ会長等
研究資金提供機関代表者
各国有名雑誌編集長等

7. 規模

参加予定の国・地域： 新参加国を含め 100 以上の
 国・地域及び国際機関
 参加予定者数： 内外計 約 1,000 人

9. 実施体制の妥当性

理事会・評議員会を開いて、毎年議論すべき適切なテーマと、それにふさわしいスピーカーを選んでいる。

理事会・評議員会は政治家代表・科学者代表・企業代表等からなり、理事は海外の理事が 3 分の 1 以上、評議員会メンバーの出身国・地域は 27 カ国・地域及び 1 国際機関である。

8. 実施期間の適性

年次総会は、トップリーダーが参加しやすいように、毎年 10 月第 1 日曜～火曜開催が確定しており、その前日の土曜日には付帯会合(本年の実施日は 10 月 6 日～7 日までとなる)が多数行われる。

10. 政策対話を目指す国際集会開催等に関するこれまでの実績

開催年	開催地	参加国数	参加者数
2004 年 (第 1 回)	京都市 (日本)	51 (国・地域及び国際機関等)	約 410 人
2005 年 (第 2 回)	京都市 (日本)	57 (国・地域及び国際機関等)	約 570 人
2006 年 (第 3 回)	京都市 (日本)	67 (国・地域及び国際機関等)	約 610 人
2007 年 (第 4 回)	京都市 (日本)	62 (国・地域及び国際機関等)	約 690 人
2008 年 (第 5 回)	京都市 (日本)	81 (国・地域及び国際機関等)	約 780 人
2009 年 (第 6 回)	京都市 (日本)	85 (国・地域及び国際機関等)	約 800 人
2010 年 (第 7 回)	京都市 (日本)	104 (国・地域及び国際機関等)	約 1000 人
2011 年 (第 8 回)	京都市 (日本)	80 (国・地域及び国際機関等)	約 800 人

11. 政策対話を有効なものとするための工夫

- 1) 提案国際集会 STS フォーラムは、事務局を日本に置き、毎年、年次総会は、日本の京都で開催している。持ち回りでの開催、あるいはその年だけ日本で開催されるものではない。“科学技術の光と影”というテーマで、世界中から各界のトップリーダーが参加する STS フォーラムは、まさに日本がリーダーシップを発揮できる場、と考えられる。
- 2) 年次京都総会の最終日に Statement を取りまとめて、議論

の集約化を図っている。

- 3) 世界中からのトップリーダーが多数集まる機会を活用し、科学技術大臣会議・機関長会議・学長会議等の特別会合を開催している。
- 4) 10 月の年次総会だけではなく、年間を通じて、理事会、評議員会、STS 年次総会準備のための各国個別会合の開催により、世界各地で多くの意見交換・交流を行っている。

12. プロジェクトの継続性・発展性

AA-STIS(American Associates of the STS forum)の創設

STS フォーラムは、2003年9月、米国科学アカデミー本部(ワシントン DC)においてその創設が宣言された。翌2004年11月に京都にて第1回設立総会が開催されて以降、世界のリーダーが一堂に会して、科学技術と人類の未来に関する重要な問題を解決するためにその叢智を結集する、真の運動へと発展してきている。

こうした発展の中にあつて米国の関係者は極めて大きな役割を果たし、2010年11月、STS フォーラム アメリカン アソシエイツ(AA-STIS 米国規約 501(c)(3)によって免税法人として指定された)が創設された。米国における支援活動を年間を通じて行い、長期的な視点に立つSTS フォーラムを議論の質と財政基盤の両面から支えることを目的として、フォーラムへの招聘や寄付の呼び掛け、更にはワークショップ(本年は、6月12日～13日米国ニューヨーク市)の開催などの活動を行うものである。

<役員>

会長 ホリデー・Jr. チャールズ O.

バンク・オブ・アメリカ会長、
競争力評議会名誉会長、前デュボン会長

理事 コルウェル・リタ R.

メリーランド大学教授、
ジョンズホプキンス大学教授

フリードマン・ジェローム I.

マサチューセッツ工科大学名誉教授、
1990年度ノーベル物理学受賞者

ゴールドフィン・ダニエル S.

インテリシス会長、元 NASA 長官

グレゴリアン・ヴァルタン

ニューヨーク・カーネギー財団理事長

ルビンシュタイン・エリス

ニューヨーク科学アカデミー兼
最高経営責任者

ザフーニ・エリアス A.

グローバルリサーチアンドデベロップメント、
サノファイベンテイス SA 社長、元 NIH 長官

13. 実施体制

理事会

総会に付議すべき事項・事業計画及び収支予算並びにその変更等を行う。

理事長：尾身 幸次

専務理事：谷口 富裕

理事：

1. シセローン・ラルフ J.
全米科学アカデミー会長
2. デマレスコ・フィリップ
バイオビジョン会長
3. フリードマン・ジェローム I.
マサチューセッツ工科大学名誉教授、
ノーベル物理学賞受賞者
4. ホリデー・Jr.・チャールズ O.
バンク・オブ・アメリカ会長、競争力評議会
名誉会長、前デュボン会長
5. 石毛 博行
独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO) 理
事長
6. 川村 隆
株式会社日立製作所会長
7. 小宮山 宏
株式会社三菱総合研究所理事長
8. 黒川 清
政策研究大学院大学教授
9. 中村 道治
独立行政法人科学技術振興機構(JST) 理事
長
10. 西田 厚聰
株式会社東芝会長
11. 岡本 一雄
トヨタ自動車株式会社代表取締役副会
長
12. ヴァールベリ=ヘンリクソン・
ハリエット
カロリンスカ研究所長
13. ヨー・フィリップ
首相府経済開発担当特別顧問、
SPRING・シンガポール長官
14. 米倉 弘昌
日本経済団体連合会会長、
住友化学株式会社会長
15. 吉川 弘之
独立行政法人科学技術振興機構(JST)
研究開発戦略センター長

監事：

1. 沖村 憲樹
独立行政法人科学技術振興機(JST) 顧問

1) 評議員会

基礎会員 78人で構成(27の国・地域、1国際機関)

STS フォーラムの運営について理事長の諮問に応じ、意見を具申する。

2) 事務局 事務総長 山元 孝二

事務局長 芹澤 ゆう